

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災及び原発事故によるサプライチェーン（部品供給網）の混乱や電力供給不足の影響により生産活動や個人消費が低迷しましたが、第2四半期会計期間に入り震災後の復興に伴って生産活動ならびに需要は上向いてまいりました。

一方、米国経済の減速や欧州の金融不安、為替円高など先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような情勢のもと、当社グループでは、顧客ニーズに合致した環境対応型の製品や価格競争力のある新製品の開発に取り組むとともに、徹底したコスト削減など改善に努めましたが、震災の影響によるカーメーカーの減産などで十分な成果には至りませんでした。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、144億5千3百万円（前年同期比8.2%減）となりました。

損益面につきましては、売上高の減少、原材料の高騰などの影響で7千万円の営業利益（前年同期比87.2%減）となりました。経常利益は持分法投資利益等により3億2千2百万円（前年同期比66.5%減）、四半期純利益は受取保険金の計上等により3億5千1百万円（前年同期比67.8%減）となりました。

セグメント別の業績の状況は次のとおりであります。

#### ① 塗料関連事業

当セグメントの業績につきましては、省エネ法ならびに節電対策を追い風に環境対応型塗料の売上拡大に注力し、前年同期実績を上回りました。

品種別売上高につきましては、建築・構築物用塗料のうち、屋根用塗料は前年同期比5.7%、床用塗料は前年同期比2.6%、防水用塗料は前年同期比7.1%増加しました。一方、請負工事関連売上高は前年同期比△7.0%と減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は60億6千4百万円（前年同期比1.3%増）セグメント利益は1億4千3百万円（前年同期比10.8%増）となりました。

#### ② 自動車製品関連事業

当セグメントの業績につきましては、東日本大震災によるサプライチェーンの寸断など国内カーメーカーの減産を背景に前年同期実績を下回りました。

品種別売上高につきましては、防錆塗料は前年同期比△15.7%、制振材は前年同期比△17.9%、吸・遮音材は前年同期比△16.2%とそれぞれ減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は83億8千2百万円（前年同期比14.0%減）、セグメント損失は7千5百万円（前年同期は4億1千5百万円のセグメント利益）となりました。

### ③ その他

保険代理業の売上高は6百万円（前年同期比5.8%増）となりました。

（注）各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高消去後の数値を記載しております。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ18億1千6百万円減少し、345億2千8百万円となりました。主な増減要因は、現金及び預金の減少11億4千3百万円、受取手形及び売掛金の増加3億6千万円、投資有価証券の減少9億5千8百万円によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ13億2千万円減少し、169億6千1百万円となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金の減少5億4千7百万円、借入金の減少4億6千2百万円、流動負債その他の減少2億2千8百万円によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億9千6百万円減少し、175億6千7百万円となりました。主な増減要因は、その他有価証券評価差額金等、その他の包括利益累計額の減少6億7千5百万円によるものです。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ11億1千1百万円減少し、28億9千3百万円となりました。

営業活動による資金は、2億1千1百万円の収入（前年同期比14億4千4百万円減少）となりました。この主な要因は、減価償却費8億円、売上債権の増加3億6千万円、仕入債務の減少5億9百万円、利息及び配当金の受取額3億8千1百万円によるものです。

投資活動による資金は、6億6千6百万円の支出（前年同期は投資有価証券の売却による収入8億6千3百万円及び有形固定資産の取得による支出5億3千4百万円などにより、2億1百万円の収入）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出5億7千1百万円、関係会社出資金の払込1億6千2百万円によるものです。

財務活動による資金は、6億2百万円の支出（前年同期比9千7百万円増加）となりました。この主な要因は、長期借入金の返済による支出5億5千6百万円、配当金の支払額1億3千2百万円によるものです。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は4億8千6百万円であります。

### (6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

### (7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい増減はありません。

### (8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。